

古佛 マローン 和尚
郵便私書箱 213
セドウィック メイン 04676-0213 USA
kobutsu.malone@gmail.com (207) 359- 2555

2011年7月22日

禅スタデイ ソサイエテイ
理事会
223東67番街
ニューヨーク NY 10021

宛先：理事会の個々及び全会員

親愛なる理事会の皆様

現在交渉進行中の嶋野の退職恩典について、報告されている彼の策謀を非常に案じてこの手紙を書いています。

この退職恩典の歴史的契約は記録にも載っているように、これに関係している理事会の立場を非常に困難にしている事が理解出来ます。 実際問題として、嶋野栄道と彼の妻は1964年以来、禅スタデイソサイエテイを彼の指導権の下に、配下部署として牛耳って来ました。

これに加えて、彼の権利剥奪の証拠は嶋野アーカイブにより全世界に向けて公表されています。 貴方がた皆、自らの経験により了解しておられる事と思いますが、これが正真正銘の実情なのです。 2010年3月25日アーカイブ発足公表まで、嶋野夫妻の理事会に対する略奪、詐欺の歴史は、彼の慎重に計画した混迷策により隠され、誰も知りませんでした。

アーカイブは私の集め得る限りの広大な証拠文書より成り立っています。 私の希望は、更に多くの人びと／剥奪され権利を奪われたZSS僧伽が名乗りを挙げ、事件の内容を提供し、ZSSの歴史的記録をより完全なものに作り上げる援助をして頂きたいと言う事です。

是等の証明された文書に加えて、文書として公式に証明されてはいないが、確かな信頼出来る経路より内々に明かされた大量の逸話的情報も加えられています。 私は今“退職恩典”に限って情報の一部を貴方に向けて公開したいと思います。

アーカイブで紹介しましたから貴方がたもご存知かと思いますが、1993年“栄道老師、嶋野やすこ、未来の禅スタデイ ソサイエテイ住持、受戒僧、尼僧の退職審議”の特別委員会が設けられました。
[http://www.shimanoarchive.com/PDFs/19930130R_ZSS_Board.pdf] この同じ日、法的に修正された一連の文書が会議により規定されました。

“ソサイエテイの住持は、彼、又は彼女が死ぬまで霊的な指導者として、又理事会の会長として就任すること。 引退は彼、又は彼女が実務機能不適切、又は失格の場合に限ること。 ソサイエテイの住持が不承知ながら失格を宣言される為には、現在の住持以外の理事会員全員満場一致の票決が必要である。 この票決は代理人、又は電話による投票は無効である。 住持は嗣法の中から選出され後継者となる。

[http://www.shimanoarchive.com/PDFs/19930130_ZSS_Bylaws.pdf]

この“引退”特別委員会は、XXXXXXXXXX に関係したスキャンダルが発覚した僅か18日後に法的に修正され発布されました：

[http://www.shimanoarchive.com/PDFs/19930112R_Xxxxx_Shimano.pdf]

殆どの人びとは多分気付かずに過ぎた事だと思いますが、1990年の半ばに起きたスキャンダルの後、ZSS理事会会員の一部のグループが、理事会は各々の嶋野栄道に対する忠義心が過ぎるため、僧伽に対する法的責任、信託を果たしていないとして、これを善処する可能性を審議するため、僧堂の外部で特別機密集会を開きました。このグループの反抗の試みは不成功に終わり、この集会に参加した人びとは、理事会から退職、又は解雇されました。

明らかにこの理事会の“反抗者達”は当時のスキャンダル／1993年9月、大菩薩禅堂会議で提示された師弟関係にまつわる責任問題、嶋野の退職恩典に関する審議に、最後まで疑問を持っていたと言う事です。[\[http://www.shimanoarchive.com/PDFs/19930929R_ZSS_Board.pdf\]](http://www.shimanoarchive.com/PDFs/19930929R_ZSS_Board.pdf)

“神聖な伝統上の師は弟子との関係において最高の規準の品行を示さなければならない。なぜならば、神聖なる教団における師としての地位を引き受けた以上、つまり、最高の職務的道義、尊敬、誠実、自制心を擁護する事が、彼らの義務であり責任なのであるから。なぜならば、禅の師は人間として、他の人びと以上の如何なる立場にあるものでもなく、彼も又人間関係において、医師と患者、セラピストと客、法律家とその依頼人と同様の規準、‘救済’の専門職に相応しい立場に留まると言う事です。”

1995年9月10日、ミス フランシス A. ペリエロは彼女のZSS辞職に際して、嶋野によって提案され受諾された“引退恩典”の不合理な内容を明快に説明しています。ミス ペリエロは“恩典”の問題点を詳しく説明し簡潔な言葉で実情を述べています。

“これは私の意見ですが、この債務は教団の長期財政的生存能力を脅かすものであるという理由で、ソサイエティはこのような気前の良い支払いをする余裕はありません。”
[\[http://www.shimanoarchive.com/PDFs/19950910_Perriello_Board.pdf\]](http://www.shimanoarchive.com/PDFs/19950910_Perriello_Board.pdf)

既に貴方をご存知なのですが、彼女の忠告は無視され、その結果貴方がたは苦境に面しています。

“引退恩典”は、ぞうげん、XXXXXXXXXX の名付けた、所謂“忠義心の罿”によって組織、僧伽に対する責任は完全に無視され、理事会によって採用されました。

1996年頃、機密の筋（当時の理事会員）からの情報により知った事ですが、“抵抗者達”により嶋野の引退恩典の必要性が調査されました。この前理事会メンバーの調査によれば、ZSSの会計士（この会計士は当時嶋野の個人会計士でもあった）と会合を持ち、この会計士より内密に知らされた所によれば、嶋野は驚くべき資産家でなんと3百50万ドルの個人資産を蓄えていると言う事でした。

私は是等の（実証も証拠文書もないのであるが）弁証を貴方に提供し、理事会が嶋野との“引退恩典”の交渉を中止するよう期待するものです。

第一： 嶋野氏は繰り返し刑罰を受ける事無く、基本的倫理と道徳の真義を無視し、違反を犯して来ましたが、是等は皆過去における彼の行為の結果である事は当然彼もはっきりと承知している事です。

第二： 際限なく繰り返された違反の実証を見尽くして来た我々にとって、彼が神聖なる場所の指導者として、住持として、或は禅スタデイ ソサイエティの会長として不適格であることは、もはや疑う余地がありません。義務付けられた職務を故意に、十分承知の上で果たさなかった雇用人に対し、そしてこの雇用人は基金を全く必要としないばかりか、この支払いを強制される事は禅スタデイ ソサイエティ自身の自殺行為であることを考慮すれば、恩典を授与する事自体無責任であり、不法行為であると思います。嶋野氏と彼の妻は我々の判断した所、貧困からはほど遠い状態にあり、引退報酬等は必要としていません。彼が引退恩典を要求する理由は、彼

の経済状態には何ら関係なく、単に契約上の債務で - 嶋野氏の歴史的常用語 “お前に関係ない” が思い出されます。このような要求を受け入れると言う事は、三宝に対する違法行為であり、彼の無責任で傲慢な行為をさらに進める事になります。真実、嶋野氏は彼の “引退恩典” の支払いがソサイエティにとって如何に重荷であるかという内情は十分に承知している事であり、このため教団を破産に追いやるであろう事など彼の思慮にはありません。唯一つ彼の心情を説明する言葉は、復讐です。

第三： 理事会の僧伽に、禅スタデイ ソサイエティに、ニューヨーク州に対する明確な信託責務は教団の存続を計る事であって、嶋野氏に対する個人的忠誠心、又は恩義を第一の重要事項に置く事は心得違いと言うものです。

第四： 嶋野氏は活動中の僧伽を何十年にも渡り彼の完全に違法的、一方的行為により破壊し、1975年12月にはついに組織を解散にまで追いやった。嶋野氏は僧伽が自立へ、又はその継続への道を歩み始めると、あらゆる手段をもってこれを遮り妨害した；彼の計算は、教団の彼に対する完全依存、つまり彼をして唯一無二の基金統轄者に納まり、とくに日本人系支援者の間でこれを強行したことです。

理事会は引退恩典の契約協議を継続するに先立って、真剣に嶋野氏の全面的資産公開調査、つまり、毎年2月日本での相当額に登る収入、日本、ヨーロッパにおける布教収入、日本における本、DVD販売収入を含めて考察するべきです。

私はアーカイブ以外、これらの事を公式に発言する事は控えて来ましたが、この重要な時点において一般大衆に公明に、正確に情報を伝える事は、私の責任であると信じています。

この手紙は嶋野アーカイブに7日間掲載されます。

貴方の意見を待ちます。

大いなる平和の下に、

古佛 マローン 和尚

cc： 禅スタデイ ソサイエティ理事会員の各々
ニューヨーク州法務長官事務局 - 慈善部
合衆国大蔵省 - 税務局
合衆国法務省 - 連邦調査局